

(目 的) 近年、家庭におけるエネルギー消費原単位は著増傾向を示しており、中でも家庭電化率の上昇が今後も見込まれている。また、人々のライフスタイルの変化に伴い、家庭電化に対する生活者のニーズや家電機器の実態も大きく変化しつつある。このような背景から電力会社としても生活の合理化、快適化に役立つ家電機器について機能や電力特性を調査し、生活実態に関する調査結果を含めて機器の省エネルギーと上手な使い方についての提案を行うことが必要となってきた。

(方 法) 生活実態に関する調査 首都圏50km内在住の20代～50代の主婦 300人に対してご飯を食べる回数と炊飯量の実態調査、電気炊飯器の印象評価、予約タイマー等の機能の印象を調査した。電気ジャー炊飯器の基本特性について 電気ジャー炊飯器の作動特性、炊飯量の差(1合から5合)による消費電力及び炊飯時間の変化を確認した。さらに高速炊飯機能(はや炊き機能)及び保温機能、タイマー機能による消費電力量の差も確認した。

(結 果) 生活実態に関する調査結果 1日のご飯を食べる回数は1.9回、電気炊飯器を利用している家庭は約80%であった。予約タイマー・保温機能等の機能に対しては80%の方が満足していることがわかった。電気ジャー炊飯器の基本特性結果 吸水終了から炊き上げ終了までの内釜の温度と消費電力量、重量の関係を把握した。その結果、温度は約50℃から100℃まで上昇し、その間の消費電力量は16～17kWh、県熱量は13,000～15,000 kcal/gであった。保温機能については、保温時間が7時間までは消費電力量は約200Whとさほど差はないが、12時間保温すると約2倍の400～450Whとなった。